

研究会のご報告

本学会主催・共催・後援の研究会について、それぞれご報告させていただきます。なお、本学会では共催・後援の申請を受けております (<http://js-dt.jp/?p=2835>)。ご興味をお持ちの方は、ぜひ、一度ご覧下さい。

■「学習活動におけるタブレット端末の活用はどうあればよいか」

平成 26 年 11 月 15 日(土)14 時より、富山大学人間発達科学部 附属人間発達科学研究実践総合センターにて、本学会後援による研究会「学習活動におけるタブレット端末の活用はどうあればよいか」が開催され、50 名以上の方からのご参加をいただき、とても有意義な会となった。

第 1 部は、本学会理事でもある亀岡市立南つつじヶ丘小学校の広瀬一弥氏から、「言語活動を充実させるためのタブレット端末の活用」の演題でご講演をいただいた。

ラーニングピラミッドを例に、これからの授業の在り方として重要なことや、さらにそれと関連させながら、具体的な授業実践例の紹介と、SAMR モデルから考えるこれからのタブレット端末の活用方法などもお話しいただき、大変参考になった。

第 2 部は、タブレット端末を活用した授業の実践を体験するワークショップを行った。

入善町立飯野小学校の岩山直樹氏からは、小学 6 年国語「この絵、わたしはこう見る」でタブレット端末を活用した授業の紹介と、それを実際に参加者が体験する活動をしていただいた。2 人に 1 台のタブレット端末を活用して、画面に表示された風神雷神図について自分が着目した点を拡大しながら相手に説明するなど、互いの考えを伝え合うための活用を体験した。

広瀬一弥氏からは、小学 6 年社会「天皇中心の国づくり ～日本の文化が生まれる～」において、1 人 1 台のタブレット端末を使い、ジグソー法を取り入れた学習に関するワークショップをしていただいた。

参加者の方々には、タブレット端末活用の体験だけでなく、エキスパート活動とジグソー活動を取り入れた学習を体験していただくこともできた。

どちらの体験もロイロノートスクールを使用し、タブレット端末用アプリの使用法も、実際の活用を通して理解することができた。

大変充実した内容の研究会となり、この様子については、地元の新聞にも紹介された。



■「21 世紀の学び、3 本の矢の 提案 in 東京」

11 月 23 日（日）13 時より、東芝情報機器株式会社（NBF 豊洲ガーデンフロント 7 階）にて本学会主催研究会「21 世紀の学び、3 本の矢の 提案 in 東京」が開催された。「授業デザイン編」「環境デザイン編」という 2 つのパネルディスカッションにより、これからの時代の ICT を活用した授業や環境整備に関する提案や問題提起を行った。

まず、武蔵大学の中橋雄教授による講演が行われ、国の実証事業から見た部分を整理し、その上で今後は、学力観、学習環境、授業デザイン、教師の授業力など改めて考えることが大切との示唆をいただいた。

「授業デザイン」パネルディスカッションでは、当会 3 人の実践者理事が、学校現場の実情や実践を紹介し、これからの学びについて提案をした。広瀬理事は情報発信の意欲と責任をもたせたアクティブな学びについて提案。内田理事は、現場の実情から、児童がタブレット端末を使うことが前提ではない無理をしない授業デザインを提案。コーディネーターの山田理事は、個から協働、また個に戻り、知的な情報を産み続ける人材の育成について提案した。

「環境デザイン」パネルディスカッションでは、田中康平氏（株式会社ネル&エム代表取締役）が、これまでの ICT 環境整備は現場目線や事業評価という視点が欠けており、整備環境が授業や学習に貢献しているかどうかを評価し改善につなげる必要性を語られた。阪上吉宏氏（株式会社エデュテクノロジー代表取締役）は、現場の意見を上手く取り入れている海外や国内の事例を紹介され、全体導入をする前に教師に端末を渡し、活用に馴染んだ後に子供達に対して整備する方法を提案された。コーディネーターの徳島文理大学の林向達准教授は、関係者がコミュニケーションを取りながら、環境デザインの課題や解決策を探り、共有していくことを課題として示された。

その後、参加者全体でフリートークを行い、様々な立場の方から本音の意見を聞くことができた。



（佐賀市立若楠小学校 教諭 内田 明）

